

令和7年度 学校評価（学校関係者評価書）

1 学校運営の目標・方針

「未来に向かって、心豊かにたくましく生きる子どもの育成」  
ー学校運営協議会と協働し、家庭・地域と連携を図りながら、人間尊重を基盤とした、やさしく、たくましく、自主性のある子どもの育成ー

2 本年度の重点目標

- ①保護者・地域と共に食育コミュニティ・スクールを展開する  
②体験活動を通じてキャリア教育を推進する  
③地域の教育力を積極的に活用する  
④情報発信やオープンスクール等の学校開放の促進

3 学校自己評価結果 A：十分達成している(そう思う) B：おおむね達成している(ややそう思う)  
C：どちらかというとは達成されていない(あまりそう思わない) D：ほとんど達成されていない(そうは思わない)

| 分野   | 評価項目・取り組み内容(指標)                                                  | 達成状況 | 学校の取り組み状況・改善の方策                                                                                                                                                |
|------|------------------------------------------------------------------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学校運営 | ・学校教育目標や学校経営方針を教育活動に反映し、日々の教育活動を学校だより・学級だより・ホームページ等で分かりやすく伝えている。 | A    | ・ホームページの発信をほぼ毎日行うことができ、日々の教育活動や、児童の様子を保護者や地域に伝えることができた。行事の年間計画が見にくいため、来年度は紙媒体でも伝えたい。                                                                           |
|      | ・学校行事の時期や内容は適切である。                                               | A    | ・行事の学期ごとのバランスに配慮しながら、今後も家庭、地域との連携を密にとりながら進めていきたい。                                                                                                              |
|      | ・清掃が行き届いており、美化に努め、校舎内外の物が整理整頓されている。また、定期的に施設・設備の点検をしている。         | B    | ・クラスごとに掃除のチェックを行う等、児童の掃除への動機づけとして具体的な手立てが必要である。児童の草引き等の機会を増やしても良いのではないかな。                                                                                      |
|      | ・いじめ・不登校問題等への対応は適切で、教職員が一致協力できる生徒指導体制ができている。                     | A    | ・生徒指導に関しては、チーム担任制をしたことにより、多くの目で見られるようになったが、各クラスの児童に対して一貫性のある指導ができにくかった。トラブル発生時には、機会を失わずに指導、対応するように心がけた。                                                        |
|      | ・危機管理マニュアルを作成し適切に運用している。登下校の安全について、点検・指導がされている。                  | A    | ・1階が地域に開放されている学校であるため、今後それに対応した安全対策も必要になってくるように思われる。                                                                                                           |
| 教育課程 | ・授業方法を工夫・改善し、分かりやすい授業に心がけている。                                    | A    | ・低学年の配慮を要する児童が、「学びのサポート」担当教員のきめ細やかな支援により、落ち着いて学習に取り組めるようになった。3年生以上は教科担任制を導入し、より専門的な教材研究と系統的な指導により、分かりやすい授業を心がけている。実際に体験する場面や、タブレットを使うことにより理解を深める場面を意識的に増やしている。 |
|      | ・評価（授業評価・学びの姿等）を通して、適切な指導をしている。                                  | A    | ・それぞれの授業の中で、児童自らが振り返り、次時の目標を設定している。                                                                                                                            |
|      | ・子どもに家庭学習（宿題等）や学習準備等の習慣を身につけさせている。                               | B    | ・家庭学習の習慣があまりついていない学年がある。宿題や自学を家庭でする習慣を身につけさせ、中学校で困らないようにする。宿題の量や内容の再検討が必要。                                                                                     |
|      | ・体験的な学習や問題解決的な学習を積極的に取り入れている。                                    | A    | ・本校は体験活動が充実しており、児童は多くの学びを得ている。また、タブレットやICT等を積極的に使用し、問題解決能力等にも工夫して取り組んでいる。                                                                                      |
|      | ・道徳の授業を大切にし、内容の充実にも努めている。                                        | A    | ・3～6年生は、チーム担任制により、多くの教師と学ぶことができ、多様な視点で育成することができた。                                                                                                              |
|      | ・読書活動を充実させている。                                                   | C    | ・貸出冊数も徐々に減ってきており、貸出冊数による表彰等、読書活動が盛んになるようなアプローチが必要と感じる。特に高学年は、読書の時間が確保できていないように思う。休み時間に宿題を学校でしている学年は、読書を学校でする習慣がついていない。読み方や選書の指導も含め、大きな課題となっている。                |

4 総合的な学校関係者評価

・今年度から保護者・地域と共に「食育コミュニティ・スクール」を展開しているが、夏野菜づくり、落花生づくり、しめ縄づくり、ゆで干し大根づくりや調理実習と内容が充実しており、非常に素晴らしい。ホームページにも多くの体験活動が載っており、積極的に取り組んでいることが分かる。食育が言葉だけに留まらず、実践を伴って行われている様々な体験活動は一生の宝物になっており、保護者として、地域の住民としてありがたく感じている。  
・様々な場面を想定した避難訓練が実施されており、児童の危機管理意識も高くなっている。学校開放施設（なんなん広場）は外部からの障害に対してバリアにもなりうるものと考えて発足した経緯があるが、時代の変化により安全面での対策を考える時期となっているのではないかな。  
・挨拶や言葉遣いは、大人が見本になるような実践をすることが大切である。単なる言葉遣いに終わるのではなく、相手の立場に立ったコミュニケーションの手段の一つであることを教えてほしい。  
・宿題を休み時間等で終わらしても良い学年がある現状に疑問を覚える。学校で宿題を終わらせてしまうため、各家庭で学習する習慣のない児童が増えていると思う。帰宅後の自由時間は、学習よりもスマホ、タブレットで埋めてしまう児童が多い。学校での休み時間は運動したり、読書をしたり、遊んだりするする時間にすべきである。

5 評価項目ごとの学校関係者評価

| 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・学校便り、ホームページ、スクリレ等は毎回わかりやすく発信されており、学校での児童の様子が詳しくわかり、学校への理解に繋がっている。ホームページ、学校便り等で詳しく、分かりやすく発信されているので、学校の教育目標が保護者と共通理解できていると思う。チーム担任制になると学年便りがないのでがさみしい。<br>・暑い時期を避けた運動会や各体験活動は児童にとっても、保護者にとってもありがたい。コロナ前に比べると地域の方とのふれあいが少なくなっていると感じる。近隣市町では学校行事が平日に開催されることも増えてきている。<br>・行事後の清掃等、保護者や地域の人と一緒に取り組む機会を増やしてほしい。1Fの清掃に関しては課題が残る。子どもだけでなく大人が率先して美化に努めることが大切である。<br>・チーム担任制導入で、確かに多くの目で見ることができており、良い点も多々ある。チーム担任制は教師間の共通理解が大切であり、トラブルがあったときの対応に如実に現れる。<br>・学校開放施設（なんなん広場）は外部からの障害に対してバリアにもなりうるものと考えて発足した経緯があるが、時代の変化により安全面での対策を考える時期となっているのではないかな。登下校の安全については、改めて保護者の認識・理解を求める必要性を感じる。                                                                                                                                                                                                                         |
| ・タブレットを有効に活用し、時代の変化に沿った授業が展開されている。低学年の授業サポートが大変充実しており、ありがたい感じている。「教科担任制」「学びのサポート」を生かした、きめの細かい、分かりやすい授業づくりに取り組んでいる。<br>・それぞれの授業の中で、児童自らが振り返り、次時の目標を設定することは、定着するには時間がかかるが、根気強く取り組めていて素晴らしい。「自ら学ぶ」を一人一人の児童に行き届く指導をしてほしい。<br>・いつからか宿題を休み時間等で終わらすことになった現状を疑問に思う。学校で宿題を終わらせてしまうため、各家庭で学習する習慣のない児童が増えていると思う。帰宅後の自由時間は、学習よりもスマホ、タブレットで埋めてしまう児童が多い。学校での休み時間は運動したり、読書をしたり、遊んだりする時間に使うべきであって宿題をしているのはおかしい。やらされる宿題よりも自ら学ぶ宿題に取り組んでほしい。<br>・新しい体験活動が増えて児童も楽しく学習しているように思う。体験活動を通じて、児童は良い刺激を受けていることが表情からわかる。「なんなん広場」との交流をもっとやってほしい。ホームページにも体験学習が多く載っており、積極的に取り組まれていることがわかる。<br>・オープンスクール等で、人格形成の核になる道徳の授業を大切にされていることが分かった。人生の基礎となる人との関わり合い、生命に対する考え方、周りの人への思いを小学生の内にしっかりと考えさせてほしい。<br>・本や新聞を読む大人の姿が良さ見本となる。学校として読書活動に力を入れてほしい。読書の時間に先生が採点等をして読書をしていないことが多い。図書室に行きたくなるような空間にしてみたい。情報系の本はできるだけ新しいものに替え、物語系の本も古すぎるものがある。 |

| 分野   | 評価項目・取り組み内容(指標)                                     | 達成状況 | 学校の取り組み状況・改善の方策                                                                                                                      | 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価                                                                                                                                                                                    |
|------|-----------------------------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 課題教育 | ・生命の大切さ、共に生きる豊かな心の育成に努め、地域の人々との関わりを通して、実践的な力を培っている。 | A    | ・人権学習で小さないのちのドアの方をゲストに、生命の誕生から、命の大切さや他人を思いやる気持ちを育てることができた。高齢者訪問を続けており、地域の方々と共に生きる喜びを実感できた。                                           | ・人権学習での赤ちゃん誕生のお話は素晴らしい内容であったため、6年生だけでなく、4、5年生にも聞かせてあげたかった。間違った情報が入る前に、しっかりと性教育を行うことの意義を確認できた。営農やまちづくりの方々と交流が、子どもたちの財産になっている。高齢者訪問において形式的な交流では不十分で、会話を含めたコミュニケーション能力が重要である。                                |
|      | ・環境体験学習・自然学校等で体験活動を充実させている。                         | A    | ・今年度は食育に力を入れ、様々な野菜を育て、調理し、体験活動が充実している。ゆで干し大根づくりでは保護者や地域の方々もたくさん参加があり、学校、家庭、地域で心豊かな子ども達の育成に繋がっている。計画的に行えるように、総合学習の年間カリキュラムに組み込んでいきたい。 | ・ゆで干し大根づくりや調理実習が充実しており、非常に素晴らしい。食育が言葉だけに留まらず、実践されている。様々な体験活動は一生の宝物になる。畑にある野菜を見て、〇〇と答えられる姿を見て、生きていく中で非常に価値のある体験ができていると感じている。大根づくり、落花生づくり、しめ縄づくり等、体験学習が充実しており、保護者もありがたく感じている。                               |
|      | ・計画的に避難訓練等を実施している。                                  | A    | ・様々な場面を想定した避難訓練が実施されておりとても良かった。学校だけでなく、消防、役場、給食室、なんなん広場、地域や家庭とも繋がった訓練も実施していきたい。                                                      | ・小学校で訓練をしっかりと行っていた方がいいことは、我が子から感じる。家で一人の時、遊びに行っている時、寝ている時等いろいろな場面で考えることも大切である。                                                                                                                            |
|      | ・外国語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成している。              | A    | ・タブレットで英会話の発表動画を共有しながら、評価し合う取り組みを行った。児童の国際感覚の育成に繋がっていきたい。ALTとの日常の挨拶や会話を積極的に行う児童も増えてきている。                                             | ・会話重視と言いつても、コミュニケーション能力があまり身についていないように感じる。地域に住まれている外国の方も増えてきている現状、外国語の必要性は高まる一方である。外国人ALTをやめる自治体が出てきているのはなぜなのか。                                                                                           |
| 努力目標 | ・正しい言葉遣いができるように指導している。                              | B    | ・教師自身の言葉遣い、児童への言葉かけに細心の注意を払う。児童に対する言葉遣いも、児童に対する指導も教師間で隔たりが大きいのと思われるので、再度確認し合って、改めるべきところは改める必要がある。                                    | ・言葉遣いに関しては、家庭やSNS等の影響が大きいのと思われるが、学校内だけでも正しい言葉遣いを耳にする環境であってほしい。相手思いやる言葉遣いの指導も大切にしたいだきたい。大人に対する言葉遣いの指導が徹底されていないように感じる。言葉遣いは、大人がどんな風に子どもたちに話しかけが大きく影響すると思う。大人と子どもは上下関係にあるのではなく、一個人として尊重されることを大人は大切にしなければならぬ。 |
|      | ・仲良く協力できる学級づくりをしている。                                | A    | ・チーム担任制のためか、学級づくりが難しい側面もあるように思われる。特活を計画的に行えるようにカリキュラムを見直すなどの手立てが必要と感じている。                                                            | ・スマホで仲間外れ等が行われているようだ。情報モラル教育に更に力を入れてほしい。チーム担任制で学級づくりが難しい面もあるが、小規模校の特性を生かして、全校生仲良しの学校にしていきたい。チーム担任制は教師間のチームワークが重要である。                                                                                      |
|      | ・きまりを守り、あいさつがしっかりできるように指導している。                      | B    | ・あいさつはまだまだ不十分。継続した指導が必要である。教師間のあいさつの指導の隔たりが大きすぎると感じるので、再度確認する必要がある。                                                                  | ・登校時立っているが、なかなか挨拶の数が増えない印象です。登下校の見守りをしているが、挨拶をしなかったり、ばらばら登校が目立つ。地域で会った児童はよく挨拶をしてくれる。あいさつの必要性から言語化して教えてほしい。                                                                                                |
|      | ・何にでも興味・関心を持ち、自ら進んで学ぶ意欲を持っている。                      | A    | ・普段の授業においても、自ら課題を見つけ、自ら探求していく場面をできるだけ多く設定している。宿題においても、自ら学ぶ自学等にもっともつと力を入れるべきだと考える。                                                    | ・自ら学ぶためには文章を読む力や文章を理解する力が不可欠であるため、文章を読まざるを得ない宿題を出してほしい。自己肯定感につながる言葉かけを繰り返すことで、自信を持ち、自ら学ぶとする意欲が出てくる。                                                                                                       |
|      | ・運動や健康教育を通して健やかな体の育成に取り組んでいる。                       | A    | ・体育やスポーツ集会等の取組で健やかな体の育成に取り組んでいるが、業間時間でさえ特に冬場は校舎内で過ごす子ども達が本校は多いのが気になる。体育館の冷暖房の設置を強く望むと共に、プールの授業をアクアプラザ等の施設を有効利用できないかな。                | ・スポーツ集会の取り組みは素晴らしいと思うのでこれからは続けてほしい。稲美中学校バスケ部と部との交流を通じて、スポーツの楽しさを実感していた。プールの授業をアクアプラザと連携していけたら良いのではないかな。                                                                                                   |

自己評価における特記事項

・全ての教員が「できている」と評価している項目は、「日々の教育活動の周知」「学校行事のあり方」「分かりやすい授業」「適切な指導」「問題解決的な学習」「道徳の授業内容」「豊かな心の育成」「体験活動の充実」「避難訓練の取組」「外国語の充実」「協力的な学級づくり」であった。特に「避難訓練の取組」に関しては、様々な場面設定のもと、学校全体が緊張感をもって取り組むことができている。また、食育を柱とした「体験活動の充実」に取り組み、ゆで干し大根づくりや野菜づくり等を通じて、保護者や地域の方々への基、心豊かな子どもの育成に繋がっている。半面、最も評価の低かったものは「読書活動の充実」であり、「できていない」と評価している教員が過半数を超えた。一人あたりの学校図書貸出冊数も少なく、本校の大きな課題となっている。読書活動が盛んになるように担任が図書室を積極的に活用する、意図的に読書の時間を設ける、休み時間の読書活動の推進等、様々なアプローチが必要となっている。また、「家庭学習の習慣」が身につけていないと答えた教員も約3割以上おり、家庭との連携を深めながら、改善しなければならないことを実感している。「清掃が行き届いた学校」においては、クラスごとの清掃指導の徹底や、児童の草引きの機会を増やすことが望まれている。

項目以外の点での来年度の課題や具体的改善方法

・今年度で2年目となったチーム担任制について児童、保護者、教員によるアンケート等によると、児童は好意的に捉えている割合の方が少し多かった。保護者はメリットとして「多くの目で見ることの安心感」「子どもと担任の相性が平均化される」、デメリットとして「担任が多くなるので相談しにくい」「深い繋がりがなく、不安である」等が多かった。教員は担任が変わることへの抵抗感を感じる割合が多かった。具体的な来年度の担任制度のアンケートでは、三者ともに一番望まれている制度は、「1・2年生は学級担任制、3～6年生は教科担任制」であった。